

今日のトピック 世界の「投信マネー」 株式への流入が減少。債券は新興アジアが増加

株式は今年に入り初の100億ドル割れ

- EPFRグローバル(注1)で世界の「投信マネー」の17年8月の資金フロー動向を見ると、株式ファンドは97億ドル(7月299億ドル)の流入超と今年に入り始めて100億ドルを割り込みました。債券ファンドは若干減少したものの266億ドル(同330億ドル)の流入超でした。
- 8月の株式ファンドは先進国全般に投資する「グローバル」が65億ドル(前月214億ドル)、「欧州」が▲0.2億ドル(前月79億ドル)と大幅に減少しました。「新興国アジア(EMアジア)(注4)」も6億ドルの流入超と前月の21億ドルから減少しました。
- 「北米」は5カ月連続の流出超となりました。

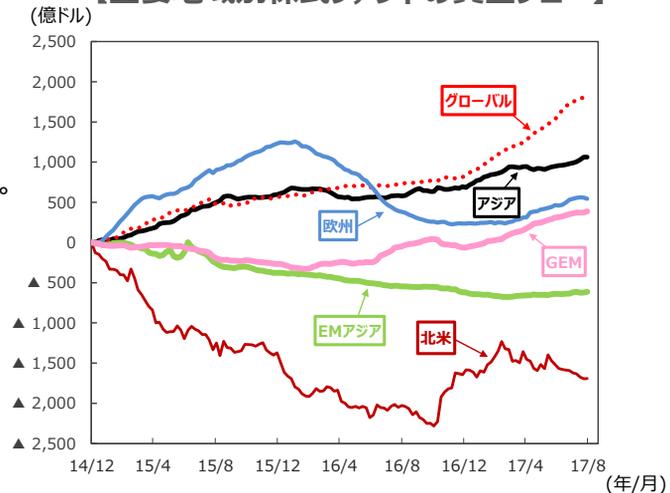
債券は新興アジアへの流入が増加

- 債券ファンドは「北米」中心の流入超に変化はありません(8月124億ドル)。先進国全般に投資する「グローバル」は48億ドル(前月62億ドル)と、若干減少し、「欧州」は51億ドルと7月(24億ドル)より流入超過額が拡大しました。
- 新興国は、43億ドルと7月(55億ドル)より減少しました。新興国の中では「EMアジア」の流入超過額が15億ドル(前月10億ドル)と唯一拡大しました。新興国の中でも、成長率が高く通貨や物価が安定しているEMアジアに出遅れ感があることなどが背景と考えられます。

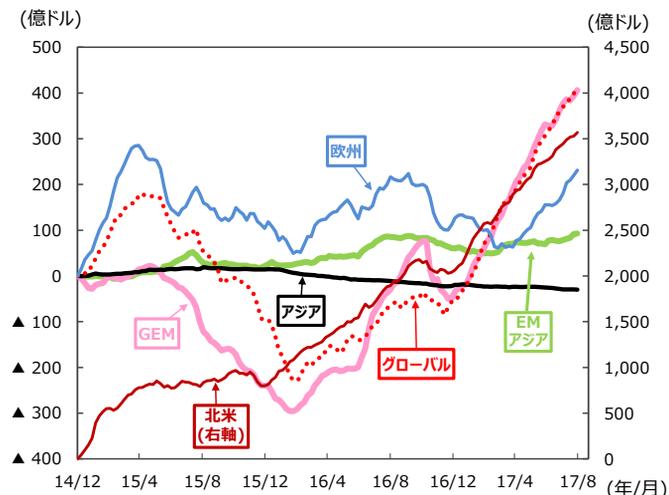
潤沢な流動性は北米債券やアジア債券へ

- 今後、欧州、米国ともに金融政策の正常化は極めてゆっくりとした速度で進むと見られる一方、流動性が潤沢な状態は当分継続する見通しです。潤沢な流動性は北米債券や、ファンダメンタルズの改善を受けたアジア新興国へ引き続き向かうと考えられます。

【主要地域別株式ファンドの資金フロー】



【主要地域別債券ファンドの資金フロー】



(注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2017年7月末現在29.9兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。

(注2) データは2014年12月～2017年8月。週次ベース。

(注3) 「アジア」は豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール、日本。

(注4) 「新興国アジア(EMアジア)」は中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュ。

(注5) 「GEM」はGlobal Emerging Markets(世界の新興国市場全体に投資するファンドの総称)。

(出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2017年8月31日 アジア通貨の動向(2017年8月)

2017年8月30日 堅調を維持する米国の社債市場(2017年8月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。